

2010年外洋全国総務委員会 議事概要

2010年1月24日

文責：野田 裕二

日時：2010年1月24日(日) 10:30~15:10

場所：国立代々木競技場会議室

出席：児玉萬平常務理事、鈴木保夫委員長、浅野英武委員、山本高靖委員
野田裕二委員

外洋三崎会長：川久保史郎、外洋三浦副会長：園信雄

外洋湘南会長：稲葉文則、外洋計測委員会委員長：林賢之輔、

外洋安全委員会委員長：大坪明、JSAF 理事・外洋西内海：金井寿雄、

外洋南九州会長：宇都光伸 JSAF 理事・外洋東海会長：坂谷定生、

外洋東関東代表：小屋忠文、外洋内海事務局長：猪上忠彦、

IRC 委員会委員・国際委員会委員：鈴木一行

合計：16名

<外洋全国総務委員会開催について>

児玉常務理事：植松副会長はレースのため今回欠席だがご了承頂きたい。JSAFの新年会に合わせたため急な案内となってしまった。

鈴木保夫委員長：外洋総務委員会を昨年4月より委員を選出し7月より会議を毎月行った、最初の2~3回はどのように進めるか模索し準備の段階であった。3回目から関東水域の4団体の会長よりご意見を伺い、4~5回目には討議内容がまとまってきたため今回全国の方にお集まり頂くこととなった、是非ご意見を伺いたい。

議事概要

<外洋艇登録規則の運用見直しについて>

艇登録を見直すにしても紙ベースのままでは管理出来ないためデータベースを今年度中に作成するように準備を始めたところである。昨年のジャパンカップで残った数十万円の費用を充てる予定。各加盟団体の協力が不可欠であるのでご協力をお願いしたい。

艇登録を増やすために初年度登録費用を無料にする、更新料を無料にするなど意見が出たが、更新料を無料にした場合JSAFメンバーでいる必要がなくなるためメンバーの減少になってしまう恐れがあり更新料は継続することとなった。

艇登録による収入を増やすため既に使われていない古いセールナンバーをオークションに付けるなどの案も出ている。

JSAF外洋艇登録規則第14条2項に「特別加盟団体も艇登録業務が出来る」となっていたがこれまでそれを止めていた。今回規則通り特別加盟団体も艇登録業務を行えることにしたい。但しJSAF外洋艇登録細則その1第1条の資格条件を満たしている必要がある。

今回の処置で艇登録を希望してもできなかった特別加盟団体が艇登録業務を行えることで艇登

録が促進されるのではないか。

規制緩和ではなく止めていた本来の規則の運用を行う事とする。

ご意見

- * 本来セールナンバーは艇に属するが、セールナンバーを継続使用する場合費用が高くセールナンバーを取り替えるにも費用がかかるためなかなか納得が得られない。結果として未登録のセールナンバーが増えているのではないか。費用を安くできないか。
- * 登録されたセールナンバーを付けることがステータスになるようなムード作りも必要。
- * 単なる数字の場合規制できない、為例えば「JPN」を付けるにはJSAFの登録艇のみとする。
- * 特別加盟団体も艇登録業務を行えるとなると加盟団体の会員が減ることも懸念される。
- * 艇登録を推進するためには艇登録手続き手数料を安くしパンフレットなどを作成し未登録艇に登録を促す必要がある。出来れば各加盟団体だけではなく外洋全体でも行って欲しい。
- * 艇登録を推進するためにはセールメーカーや販売会社への協力もお願いすべきではないか。
- * メンバー登録、艇登録、計測をワンストップで出来る様にして欲しい。
- * 特別加盟団体も艇登録業務を行える事の案内時には経緯説明が必要。
- * 会員になるメリットがないとの声が多い、会員になるメリットを示す必要がある。
- * 艇登録するとJSAFレーティングを付けるなども必要ではないか。

<外洋特別会計について>

一般会計では予算を翌年度への持ち越しが出来ないため大きなレースが出来ない。例えばメルボルン大阪のレースの場合4年間をかけて協賛を集め予算が作れた。特別会計になれば使用目的の協賛が出来る様になる、すなわち外洋で集めたお金は外洋内部で使うことが出来る様になる。

外洋を活性化するため各加盟団体の基金の拠出やJSAFからの交付金を外洋に充てるなど今後検討することとなった。

公益法人制度改革に伴いこのまま一般会計が出来なくなるため特別会計とする方向で検討中。ほぼ認められるものと思われ実施は平成23年度を予定している。

特別会計で運営する場合人的問題がJSAF及び外洋でも問題となるため今後検討が必要である。

<VHF通信について>

平成21年10月2日付けで施行された総務省令「船舶共通通信システム」により国際VHF通信の規制緩和が実現し機器が安価で購入出来るようになった。またJSAFの会員のみで使用が許されている71ch・74chを有効活用し艇登録の推進と会員増大を計りたい。

現在の規定で行けば海岸局(71ch・74ch利用可能)を開設する場合JSAF登録艇の場合、13,000円非登録艇の場合63,000円必要である。

今回国際VHF通信活用、艇登録の推進のため、「JSAF所属海岸局への加入・登録規程」の適用を行わず、非登録艇の取扱を止め非登録艇に対しては艇登録(ヨット以外でも海岸局開設を希望する艇全て)して頂く。新規登録艇及び既存登録艇に対し無線局加入証明の発行手数料3,000円・加入会費(5年前納10,000円)は当面の間適用を除外する。

以上の提案に対し出席者全員の承諾があり即時実施する事とする。

<報告事項>

安全委員会：世界では新ルールが決まって運用されているのに日本が数ヶ月遅れて運用するた

め新艇の場合や海外遠征隊で新ルールが適用されないという矛盾した現象が起きている。そこで4月からは2010年のルールで運用する。未だに安全検査と勘違いされている場合が見受けられるが、今後はレースで規定されているカテゴリーをクリアしている自己申告書をレース主催者に提出することとする。年一回提出して頂いていた宣誓書は不要。

全国に6名の安全委員が居るが全員が共通認識を持ち会員に対しサービスを行ってゆきたい。

IRC委員会：IRCレーティングは年々採用国も増え約8,000艇が取得し現在も増加している。既に更新時期となっているため早めに申し込んで頂きたい。更新案内は各加盟団体へ出しているがレスポンスが遅いところもあるため一部既存取得艇に対し直接更新案内を行っている。

<その他>

若い方々にヨットはどんなものかヨットに乗って見たいと思わせる映画を作りたいとのことで外洋南九州も協力した映画「海の金魚」が出来たので是非見て頂きたい。